

【1.体制】

常勤医師11名

外来非常勤医師0.84名（常勤換算）

【2.取組内容と実績】

2022年度も前年に引き続きCOVID-19対策として発熱者外来、COVID-19感染患者病床の運用を行った。

COVID-19の院内クラスターが2回発生しその都度病棟閉鎖、転院患者や救急車の受け入れ停止を余儀なくされ、院内の医療体制の維持に多大な影響を与えた。また地域医療への影響も大きく、当院の医療圏の患者にもかかわらず遠方の医療機関への搬送を余儀なくされた事例も多かった。

COVID-19の外来受診者数は674名で、入院患者数は院内発生を含め138名だった。COVID-19による死者数は4名で入院患者の2.9%だった。またCOVID-19関連死亡者は5名で、COVID-19死亡者と合わせると死亡率は6.5%だった。重症化に伴う他院への転院患者は含まれていない。

診療体制は前年と変わりなく、常勤医11人＋外来非常勤医の体制で診療を行った。

外来体制は、循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・外科・泌尿器科・脳神経外科・整形外科・心臓血管外科・内科外来の他に乳腺外来・大腸肛門外来・糖尿病外来・肝臓外来・腎不全外来・禁煙外来の特殊外来などに変化は無く、新患者数3,402名、年間の総受診者数は35,754名である。紹介患者は1,593名だった。

救急外来はCOVID-19流行のため常に感染のリスクにさらされており常に緊張を要した。実際に救急搬入患者から感染が判明した事例もあった。救急外来では、年間の受診者は3,637名で、救急車搬入では632名を受け入れた。院内でのCOVID-19クラスターのため救急ストップせざるを得ない期間もあったが受入患者数は前年と大きな変化は無かった。

総入院患者数は31,130名で、病棟別入院患者数は、一般病棟8,579名、地域包括病棟10,327名、回復期病棟12,224名だった。過去3年間一般病床を地域包括病床へ徐々に転換し、前年度初めは、一般病床27床、地域包括病床61床、回復期病床40床の128床だったが、看護職員の不足のため9月からは地域包括病床28床を休床せざるを得ず、100床での運用となっている。総入院患者数は前年の80%で、地域包括病棟の利用は前年の62.5%と大きく減少している。地域包括病棟の一部を引き続きCOVID-19専用病棟に使用している。

外来化学療法室は、手術後の治療成績向上や、延命／緩和を目的として、生活の質を落とすことなく安全で最大限の効果を得られるように各スタッフの協力の下に行っている。

当院は、急性期治療を終えてリハビリを行い在宅復帰するための中間施設としての役割も担っているが、また退院した後も継続的に支援を行うために訪問リハと通所リハを備えているが、これもCOVID-19の流行状況を見ながら感染対策に留意した。

済生会の基本方針としての生活困窮者への生活全般への支援をMSWが中心となり取り組んでいる。2022年度は無料低額診療事業は7.55%であり前年より微減し済生会グループの中では下位に位置しており一層の努力が求められている。

地域医療研修のため当院では研修医を迎え入れている。2022年度は済生会熊本病院10名と済生会横浜南部病院から5名の計15名が1ヵ月の研修を行った。急性期病院では経験することができない地域での医療の実態をみるほば初めての経験となっている。COVID-19の流行は研修にも影響し、例年湯島診療所での離島研修を経験してもらい研修医には好評を博していたが前年に続き2022年度も中止せざるを得ず残念だった。